

2014年度 野村 誠氏 音楽学 特別講義

1. 日 時 : 2014年9月30日(火)13時30分～16時45分
2. 場 所 : 音楽博物館
3. 対象学生【必修】 : 大学 音楽学専攻生・「民族音楽学 B」・「フィールドワーク演習 B」  
「音楽プロデュース実践演習」 各受講生 他聴講可 (学内のみ)
4. 講 師 紹 介 : 野村 誠 (作曲家)

作曲家、日本センチュリー交響楽団コミュニティ・プログラム・ディレクター。東京藝大、足立区、NPO「音まち計画」、東京都と共同で、千住だじゃれ音楽祭を監修。また、英国と日本の2国間で、コミュニティ・オペラを創作した。2006年度、NHK教育テレビ「あいのて」番組監修し、21の番組で作曲、音あそび考案、出演で、全面的に関わった。

5. 講 義 概 要

地域社会と音楽を結ぶ活動 — 作曲家×オーケストラの実践 —

オーケストラに対する先入観

- 1) クラシック音楽しか演奏できない
- 2) 楽譜がないと演奏できない
- 3) コンサートしかできない

しかし、現代のオーケストラは、クラシック以外の音楽を演奏する機会が増え、楽譜がなくても演奏し、コンサート以外にワークショップなどにも取り組んでいます。この講義では、日本センチュリー交響楽団の新たな取り組みを紹介し、社会と音楽を結ぶ活動を具体的に考えます。また、千住だじゃれ音楽祭で東京藝大の学生達が果たした役割など、地域社会と音大生の関わりについても触れながら、豊中で大阪音大とセンチュリー響が交わる新たな試みの可能性を考えます。後半は、参加型ワークショップとして、博物館内にあるバリガムランなどの楽器を実際に触りながら、楽譜に依拠せずに創造的な音楽活動を行う方法を学びます。